

避難所備蓄資機材等の拡充 ～いざというとき 行政として今できること～

1 目的

地震・風水害等の災害に対し、避難所等の備蓄資機材を整備することで、市民の安全と安心を確保する防災・減災対策を継続的に推進していきます。

2 事業内容

市役所、不二ガ丘防災倉庫、防災拠点、避難所に設置されている防災倉庫への食糧及び資機材の行政備蓄を拡充します。



○食糧及び飲料水の備蓄量の拡充（4年計画で拡充）

「概ね人口の10%の2食分」

→「南海トラフ地震等被害想定避難者数[※] 15,000人×3食×3日分」

食糧及び飲料水	現 在	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	合 計
クラッカー	47,040食	13,440食	13,440食	13,440食	13,440食	100,800食
アルファ米（わかめ）	10,800食	3,100食	3,100食	3,100食	3,100食	23,200食
アルファ米（白飯）	1,850食	550食	550食	550食	550食	4,050食
缶入りパン	3,240食	912食	912食	912食	984食	6,960食
飲料水	63,048本	18,000本	18,000本	18,000本	17,952本	135,000本

[※]愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査（愛知県 平成26年5月）の想定避難者数（最大）

○停電対策の更なる強化

可搬式のポータブル蓄電池を災害対策本部及び防災拠点9か所に各1台配備します。

○避難所における生活環境の向上や被災住宅への応急対策を図るため新たな備蓄資機材を配備

各避難所に使い捨てカイロ、カセットコンロを備蓄するとともに、福祉避難所に車椅子対応型組立式マンホールトイレを配備します。また、被災住宅への応急対策としてブルーシートを備蓄します。

3 予算額 令和2年度(2020年度)

42,991千円（避難所備蓄資機材等を整備するために必要な費用）

4 過去の実績

これまで、防災・減災対策に向けた新たな備蓄資機材の配備として、障がい者支援セットや使い捨て哺乳瓶を備蓄。また、令和元年度には、避難所における停電対策として各避難所にLEDランタンを4台配備するとともに、ガス発電機を2台(防災拠点は3台)配備。